

からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……

2026.2.2~2.8 (試行版)

| | |
|------------|---|
| 2.2 月曜日 | 「イエスは、『預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである』と言われた。』」(マコ 6:4) ●人々はイエスが真理を語る神であるということ認めなかった。イエスは彼らにとって単なる「人間」に見えた。神の受肉とは、人間の理性に対してつまずきとなる。ただ、信仰が求められる。 |
| 2.3 火曜日 | 「そして、(イエスは)十二人を呼び寄せ、二人ずつ組にして遣わすことにされた。」(マコ6:7) ●イエスが行った弟子訓練は、ツーマンセルで、物資は最低限。弟子たちは、ただ相方を信頼し、イエスの権能に頼るしかない条件の中で伝道した。そして人々に悔い改めを伝え癒しを行う旅は大成功した。 |
| 2.4 水曜日 | 「そのほかにも、『彼はエリヤだ』と言う人もいれば、『昔の預言者のような預言者だ』と言う人もいた。」(マコ 6:15) ●イエスの常軌を逸した様子に人々は困惑した。しかし、イエスに選ばれ共に歩み寝食を共にした、弟子たちはイエスが誰であるかを知っていた。(マコ 8:29) |
| 2.5 木曜日 | 「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。」(マコ 6:34) ●イエスの目に罪ある人間は「裁き」でなく「憐み」の対象であった。イエスは人間の悲しい現実には「はらわた」を痛み、私たちのために命を捨てるほどの愛を示してくださった。 |
| 2.6 金曜日 | 「ところが、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て、夜が明けるころ、湖の上を歩いて弟子たちのところに行き、そばを通り過ぎようとした。」(マコ 6:48) ●イエスはその顔を見せず背中を見せた瞬間、私たちはイエスが神であることを知る。私たちが苦しみ、どん底にある時、神が隠れているように感じる。しかし、この「隠れ」の体験の中でこそ十字架の救いが示される。 |
| 2.7 土曜日 | 「その地方をくまなく走り回り、どこでもイエスがおられると聞けば、そこへ病人を床に乗せて運び始めた。」(マコ 6:55) ●イエスを求め、集まってきたのは体や生活に問題を抱える人々であった。逆に、地位や財産を持っている人々は彼を求めなかった。私たちはどちらの側に立っているだろうか。 |
| 2.8 日曜日 | 「『あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。』」(マコ 7:8) ●律法はなぜ神がそれを定めたかを考えつつ実践する必要がある。これを忘れ律法学者たちはそれを外的に守ることにだけ固執した。律法は神と人との関係、人と人との関係を正しく保つための手段に過ぎない。律法は人のためにあるのであって、人が律法のためにあるのではない。 |